

＜事業企画評価＞

1) 評価方法

事業企画評価：目的に即した事業企画であるか査定する。

2) 具体的な手順

- (1) 「事業企画評価票」別紙2により、受講者に対して調査を行う。
- (2) 評価の時期は研修終了後とするが、必要に応じて、他の時期にも行うことができる。

3) 評価結果

評価結果を表7示す。研修計画の教育計画や実習内容などについては概ね適切との評価であった。研修期間については、「別の時期が良い」が半数で、具体的には7月から9月を希望するものがあった。また、研修間隔については、「40日連続」を希望する研修生がほとんどであった。

募集方法・受講資格では、受講条件もほとんどが適切であった。定員については規定の20名では多すぎるとの意見がほとんどで、10名前後を希望するものが多かった。「次年度事業に向けた方向性」についても「継続したほうがよい」と7名(87.5%)であった。

＜フォローアップ調査（業務への反映度の測定）＞

1) 評価方法

フォローアップ調査（業務への反映度の測定）

：受講生が研修の成果を所属施設で活用できているかを測定する。

2) 具体的な手順

- (1) 「フォローアップ調査票」別紙3を使って、推薦者に依頼する。
- (2) 評価の時期は、研修終了約6か月後、1年後とする。

表3. 個人評価結果

(n=8)

目的	評価項目	中間評価					最終評価				
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
1. がん治療の実際と看護	・がん医療の基礎知識とがん医療対策について理解できる		7(87.5%)		1(12.5%)		2(25.0%)	6(75.0%)			
	・化学療法の実際(治療)を理解できる	3(37.5%)	4(50.0%)		1(12.5%)		8(100%)				
	・化学療法を受ける患者の看護を実践できる		7(87.5%)		1(12.5%)		5(62.5%)	3(37.5%)			
	・手術療法の実際(治療)を理解できる		3(37.5%)	5(62.5%)			3(37.5%)	2(25.5%)	3(37.5%)		
	・手術療法を受ける患者の看護を実践できる		2(25.0%)	6(75.0%)			1(12.5%)	3(37.5%)	4(50.0%)		
	・放射線療法の実際(治療)を理解できる		5(62.5%)	3(37.5%)			6(75.0%)	1(12.5%)	1(12.5%)		
	・放射線療法を受ける患者の看護を実践できる		5(62.5%)	3(37.5%)			2(25.0%)	5(62.5%)	1(12.5%)		
	・がん患者の心理過程を理解できる		7(87.5%)		1(12.5%)		5(62.5%)	3(37.5%)			
	・危機理論を理解できる		5(62.5%)	1(12.5%)	2(25.0%)		2(25.0%)	6(75.0%)			
	・家族機能のアセスメントと援助について理解できる		6(75.0%)	1(12.5%)	1(12.5%)		3(37.5%)	5(62.5%)			
2. 治療経過で体験する患者・家族の危機状態に応じた精神的支援	・家族機能のアセスメントと援助を実践できる		7(87.5%)		1(12.5%)		2(25.0%)	5(62.5%)	1(12.5%)		
	・悲嘆のプロセスとケア、グリーフワーク・グリーフケアを理解できる		6(75.0%)	1(12.5%)	1(12.5%)		1(12.5%)	6(75.0%)	1(12.5%)		
	・トータルペインの視点を理解できる		7(87.5%)		1(12.5%)		5(62.5%)	3(37.5%)			
	・がん性疼痛の治療を理解できる		8(100%)				4(50.0%)	4(50.0%)			
	・がん性疼痛のある患者への看護を実践できる		7(87.5%)	1(12.5%)			1(12.5%)	6(75.0%)	1(12.5%)		
	・その他の症状に対する看護を実践できる		7(87.5%)	1(12.5%)			3(37.5%)	4(50.0%)	1(12.5%)		
	・がん患者のセルフケア支援を理解できる		8(100%)				7(87.5%)	1(12.5%)			
	・がん患者のセルフケア支援を実践できる		4(50.0%)	1(12.5%)	3(37.5%)		3(37.5%)	5(62.5%)			
	・セルフケア能力の向上を目指した支援を実践できる		3(37.5%)	3(37.5%)	2(25.0%)		2(25.0%)	6(75.0%)			
	・がん医療における薬剤師の役割を理解できる		6(75.0%)	2(25.0%)			6(75.0%)	2(25.0%)			
3. がんの進行に伴う苦痛に対する適切なアセスメントと症状コントロール	・緩和ケア病棟における看護の実際を理解できる		8(100%)				4(50.0%)	4(50.0%)			
	・緩和ケア病棟での看護活動に参加できる		8(100%)				4(50.0%)	4(50.0%)			
	・在宅における継続看護と緩和ケアの実際を理解できる		5(62.5%)	3(37.5%)			4(50.0%)	3(37.5%)	1(12.5%)		
	・在宅における看護活動に参加できる		6(75.0%)	2(25.0%)			4(50.0%)	4(50.0%)			
	・チーム医療のあり方と看護師の役割を理解できる		7(87.5%)	1(12.5%)			6(75.0%)	2(25.0%)			
	・がんにおける地域連携活動の実際を理解できる		7(87.5%)	1(12.5%)			4(50.0%)	4(50.0%)			
	・倫理的問題への対応を理解できる		7(87.5%)		1(12.5%)		2(25.0%)	6(75.0%)			
	・意思決定支援を理解できる		6(75.0%)	1(12.5%)	1(12.5%)		5(62.5%)	3(37.5%)			
	・倫理的問題への対応や意思決定支援を看護実践で活用できる		2(25.0%)	4(50.0%)			2(25.0%)	6(75.0%)			
	・事例展開とプレゼンテーションが実践できる		6(75.0%)				5(62.5%)	3(37.5%)			
4. がんとの共生を支えるためのがん患者教育	・院内における多職種との協働および、他施設、地域との連携や協働										
	・がん患者のセルフケア支援を実践できる		8(100%)				7(87.5%)	1(12.5%)			
	・がん患者のセルフケア支援を実践できる		4(50.0%)	1(12.5%)	3(37.5%)		3(37.5%)	5(62.5%)			
	・セルフケア能力の向上を目指した支援を実践できる		3(37.5%)	3(37.5%)	2(25.0%)		2(25.0%)	6(75.0%)			
	・がん医療における薬剤師の役割を理解できる		6(75.0%)	2(25.0%)			6(75.0%)	2(25.0%)			
	・緩和ケア病棟における看護の実際を理解できる		8(100%)				4(50.0%)	4(50.0%)			
	・緩和ケア病棟での看護活動に参加できる		8(100%)				4(50.0%)	4(50.0%)			
	・在宅における継続看護と緩和ケアの実際を理解できる		5(62.5%)	3(37.5%)			4(50.0%)	3(37.5%)	1(12.5%)		
	・在宅における看護活動に参加できる		6(75.0%)	2(25.0%)			4(50.0%)	4(50.0%)			
	・チーム医療のあり方と看護師の役割を理解できる		7(87.5%)	1(12.5%)			6(75.0%)	2(25.0%)			
5. 院内における多職種との協働および、他施設、地域との連携や協働	・がんにおける地域連携活動の実際を理解できる		7(87.5%)		1(12.5%)		2(25.0%)	6(75.0%)			
	・倫理的問題への対応を理解できる		7(87.5%)		1(12.5%)		2(25.0%)	6(75.0%)			
	・意思決定支援を理解できる		6(75.0%)	1(12.5%)	1(12.5%)		5(62.5%)	3(37.5%)			
	・倫理的問題への対応や意思決定支援を看護実践で活用できる		2(25.0%)	4(50.0%)			2(25.0%)	6(75.0%)			
	・事例展開とプレゼンテーションが実践できる		6(75.0%)				5(62.5%)	3(37.5%)			
	6. がん患者及び家族にかかわる倫理的ジレンマへの対応	・がん患者のセルフケア支援を実践できる		8(100%)				7(87.5%)	1(12.5%)		
		・がん患者のセルフケア支援を実践できる		4(50.0%)	1(12.5%)	3(37.5%)		3(37.5%)	5(62.5%)		
		・セルフケア能力の向上を目指した支援を実践できる		3(37.5%)	3(37.5%)	2(25.0%)		2(25.0%)	6(75.0%)		
		・がん医療における薬剤師の役割を理解できる		6(75.0%)	2(25.0%)			6(75.0%)	2(25.0%)		
		・緩和ケア病棟における看護の実際を理解できる		8(100%)				4(50.0%)	4(50.0%)		
・緩和ケア病棟での看護活動に参加できる			8(100%)				4(50.0%)	4(50.0%)			
・在宅における継続看護と緩和ケアの実際を理解できる			5(62.5%)	3(37.5%)			4(50.0%)	3(37.5%)	1(12.5%)		
・在宅における看護活動に参加できる			6(75.0%)	2(25.0%)			4(50.0%)	4(50.0%)			
・チーム医療のあり方と看護師の役割を理解できる			7(87.5%)	1(12.5%)			6(75.0%)	2(25.0%)			
・がんにおける地域連携活動の実際を理解できる			7(87.5%)		1(12.5%)		2(25.0%)	6(75.0%)			
7. その他	・倫理的問題への対応を理解できる		7(87.5%)		1(12.5%)		2(25.0%)	6(75.0%)			
	・意思決定支援を理解できる		6(75.0%)	1(12.5%)	1(12.5%)		5(62.5%)	3(37.5%)			
	・倫理的問題への対応や意思決定支援を看護実践で活用できる		2(25.0%)	4(50.0%)			2(25.0%)	6(75.0%)			
	・事例展開とプレゼンテーションが実践できる		6(75.0%)				5(62.5%)	3(37.5%)			
	・がん患者のセルフケア支援を実践できる		8(100%)				7(87.5%)	1(12.5%)			
	・がん患者のセルフケア支援を実践できる		4(50.0%)	1(12.5%)	3(37.5%)		3(37.5%)	5(62.5%)			
	・セルフケア能力の向上を目指した支援を実践できる		3(37.5%)	3(37.5%)	2(25.0%)		2(25.0%)	6(75.0%)			
	・がん医療における薬剤師の役割を理解できる		6(75.0%)	2(25.0%)			6(75.0%)	2(25.0%)			
	・緩和ケア病棟における看護の実際を理解できる		8(100%)				4(50.0%)	4(50.0%)			
	・緩和ケア病棟での看護活動に参加できる		8(100%)				4(50.0%)	4(50.0%)			

A. 十分である B. 十分ではないがほぼできる C. 不十分である D. 全くできない E. 実践する機会がなかった

表4. 緩和ケア病棟 指導者評価結果

(n=8)

目的	評価項目	指導者評価				
		A	B	C	D	E
1. がん治療の実際と看護	・がん医療の基礎知識とがん医療対策について理解できる					
	・化学療法の実際(治療)を理解できる					
	・化学療法を受ける患者の看護を実践できる					
	・手術療法の実際(治療)を理解できる					
	・手術療法を受ける患者の看護を実践できる					
	・放射線療法の実際(治療)を理解できる					
	・放射線療法を受ける患者の看護を実践できる					
2. 治療経過で体験する患者・家族の危機状態に応じた精神的支援	・がん患者の心理過程を理解できる		8(100.0%)			
	・危機理論を理解できる			4(50.0%)		4(50.0%)
	・家族機能のアセスメントと援助について理解できる	1(12.5%)	7(87.5%)			
	・家族機能のアセスメントと援助を実践できる		6(75.0%)			2(25.0%)
	・悲嘆のプロセスとケア、グリーフワーク・グリーフケアを理解できる		6(75.0%)			2(25.0%)
	・トータルペインの視点を理解できる		8(100.0%)			
	・がん性疼痛の治療を理解できる		8(100.0%)			
3. がんの進行に伴う苦痛に対する適切なアセスメントと症状コントロール	・がん性疼痛のある患者への看護を実践できる		6(75.0%)			2(25.0%)
	・その他の症状に対する看護を実践できる		8(100.0%)			
	・がん患者のセルフケア支援を理解できる		8(100.0%)			
	・がん患者のセルフケア支援を実践できる		6(75.0%)			2(25.0%)
	・セルフケア能力の向上を目指した支援を実践できる		6(75.0%)			2(25.0%)
	・がん医療における薬剤師の役割を理解できる					
	・緩和ケア病棟における看護の実際を理解できる	2(25.0%)	4(50.0%)			
5. 院内における多職種との協働および、他施設、地域との連携や協働	・緩和ケア病棟での看護活動に参加できる	2(25.0%)	4(50.0%)			
	・在宅における継続看護と緩和ケアの実際を理解できる					
	・在宅における看護活動に参加できる					
	・チーム医療のあり方と看護師の役割を理解できる	3(37.5%)	3(37.5%)			
	・がんにおける地域連携活動の実際を理解できる					
	・倫理的問題への対応を理解できる		6(75.0%)			
	・意思決定支援を理解できる	1(12.5%)	5(62.5%)			
6. がん患者及び家族にかかわる倫理的ジレンマへの対処	・倫理的問題への対応や意思決定支援を看護実践で活用できる	2(25.0%)	4(50.0%)			
	・事例展開とブレインストーミングが実践できる					
7. その他						

記入漏れあり

(n=6)

A. 十分できる B. 十分ではないがほぼできる C. 不十分である D. 全くできない E. 実践する機会がなかった

表5. 訪問看護ステーション 指導者評価結果 (n=8)

目的	評価項目	指導者評価				
		A	B	C	D	E
1. がん治療の実際と看護	・がん医療の基礎知識とがん医療対策について理解できる					
	・化学療法の実際(治療)を理解できる					
	・化学療法を受ける患者の看護を実践できる					
	・手術療法の実際(治療)を理解できる					
2. 治療経過で体験する患者・家族の危機状態に応じた精神的支援	・手術療法を受ける患者の看護を実践できる					
	・放射線療法の実際(治療)を理解できる					
	・放射線療法を受ける患者の看護を実践できる					
	・がん患者の心理過程を理解できる	3(37.5%)	3(37.5%)	1(12.5%)		1(12.5%)
3. がんの進行に伴う苦痛に対する適切なアセスメントと症状コントロール	・危機理論を理解できる	3(37.5%)	4(50.0%)		1(12.5%)	
	・家族機能のアセスメントと援助について理解できる	3(37.5%)	5(62.5%)			
	・家族機能のアセスメントと援助を実践できる	3(37.5%)	5(62.5%)			
	・悲嘆のプロセスとケア、グリーフワーク・グリーフケアを理解できる	3(37.5%)	4(50.0%)			1(12.5%)
	・トータルペインの視点を理解できる	3(37.5%)	5(62.5%)			
	・がん性疼痛の治療を理解できる	2(25.0%)	4(50.0%)			2(25.0%)
	・がん性疼痛のある患者への看護を実践できる	2(25.0%)	4(50.0%)			2(25.0%)
	・その他の症状に対する看護を実践できる	3(37.5%)	4(50.0%)			1(12.5%)
	・がん患者のセルフケア支援を理解できる	3(37.5%)	5(62.5%)			
	・がん患者のセルフケア支援を実践できる	3(37.5%)	5(62.5%)			
4. がんとの共生を支えるためのがん患者教育	・セルフケア能力の向上を目指した支援を実践できる	4(50.0%)	4(50.0%)			
	・がん医療における薬剤師の役割を理解できる					
	・緩和ケア病棟における看護の実際を理解できる					
	・緩和ケア病棟での看護活動に参加できる					
5. 院内における多職種との協働および、他施設、地域との連携や協働	・在宅における継続看護と緩和ケアの実際を理解できる	3(37.5%)	5(62.5%)			
	・在宅における看護活動に参加できる	4(50.0%)	4(50.0%)			
	・チーム医療のあり方と看護師の役割を理解できる	4(50.0%)	4(50.0%)			
	・がんにおける地域連携活動の実際を理解できる	3(37.5%)	5(62.5%)			
6. がん患者及び家族にかかわる倫理的ジレンマへの対処	・倫理的問題への対応を理解できる	2(25.0%)	4(50.0%)			2(25.0%)
	・意思決定支援を理解できる	2(25.0%)	4(50.0%)			2(25.0%)
	・倫理的問題への対応や意思決定支援を看護実践で活用できる	2(25.0%)	4(50.0%)			2(25.0%)
	・事例展開とブレインストーミングが実践できる					
7. その他						

A. 十分できる B. 十分ではないがほぼできる C. 不十分である D. 全くできない E. 実践する機会がなかった

(n=8)

表6. がん病棟 指導者評価結果

目的	評価項目	指導者評価				
		A	B	C	D	E
1. がん治療の実際と看護	・がん医療の基礎知識とがん医療対策について理解できる	7(87.5%)	1(12.5%)			
	・化学療法の実際(治療)を理解できる	7(87.5%)	1(12.5%)			
	・化学療法を受ける患者の看護を実践できる	7(87.5%)	1(12.5%)			
	・手術療法の実際(治療)を理解できる	4(50.0%)	1(12.5%)			3(37.5%)
2. 治療経過で体験する患者・家族の危機状態に応じた精神的支援	・手術療法を受ける患者の看護を実践できる	4(50.0%)	1(12.5%)			3(37.5%)
	・放射線療法の実際(治療)を理解できる	5(62.5%)	3(37.5%)			
	・放射線療法を受ける患者の看護を実践できる	4(50.0%)	3(37.5%)			1(12.5%)
	・がん患者の心理過程を理解できる	7(87.5%)	1(12.5%)			
3. がんの進行に伴う苦痛に対する適切なアセスメントと症状コントロール	・危機理論を理解できる	6(75.0%)	2(25.0%)			
	・家族機能のアセスメントと援助について理解できる	5(62.5%)	3(37.5%)			
	・家族機能のアセスメントと援助を実践できる	5(62.5%)	3(37.5%)			
	・悲嘆のプロセスとケア、グループワーク・グループケアを理解できる	4(50.0%)	1(12.5%)			3(37.5%)
4. がんとの共生を支えるためのがん患者教育	・トータルペインの視点を理解できる	4(50.0%)	2(25.0%)			2(25.0%)
	・がん性疼痛の治療を理解できる	4(50.0%)	2(25.0%)			2(25.0%)
	・がん性疼痛のある患者への看護を実践できる	2(25.0%)	4(50.0%)			2(25.0%)
	・その他の症状に対する看護を実践できる	7(87.5%)	1(12.5%)			
5. 院内における多職種との協働および、他施設、地域との連携や協働	・がん患者のセルフケア支援を理解できる	6(75.0%)	2(25.0%)			
	・がん患者のセルフケア支援を実践できる	6(75.0%)	2(25.0%)			
	・セルフケア能力の向上を目指した支援を実践できる	6(75.0%)	2(25.0%)			
	・がん医療における薬剤師の役割を理解できる	3(37.5%)	5(62.5%)			
6. がん患者及び家族にかかわる倫理的ジレンマへの対処	・緩和ケア病棟における看護の実際を理解できる					
	・緩和ケア病棟での看護活動に参加できる					
	・在宅における継続看護と緩和ケアの実際を理解できる					
	・在宅における看護活動に参加できる					
7. その他	・チーム医療のあり方と看護師の役割を理解できる	7(87.5%)	1(12.5%)			
	・がんにおける地域連携活動の実際を理解できる	3(37.5%)	2(25.0%)			3(37.5%)
	・倫理的問題への対応を理解できる	6(75.0%)	2(25.0%)			
	・意思決定支援を理解できる	6(75.0%)	2(25.0%)			
	・倫理的問題への対応や意思決定支援を看護実践で活用できる	6(75.0%)	2(25.0%)			
	・事例展開とプレゼンテーションが実践できる	6(75.0%)	1(12.5%)			1(12.5%)

A. 十分できる B. 十分ではないがほぼできる C. 不十分である D. 全くできない E. 実践する機会がなかった

表7. 事業企画評価結果

評価項目	評価	意見
1. 研修計画		
1) 教育計画		
①目標の設定について	①適切 7(87.5%) ②適切でない 1(12.5%)	・緩和ケア領域の目標が高すぎる ・期間が短い
②研修内容(全般)について	①適切 8(100%) ②適切でない	
③実習内容について	①適切 8(100%) ②適切でない	・病棟実習が飛ばない方がよい。 ケモ室や訪看は続けなくてもよい ・化学療法室3日間のうち何日かリンパマッサージ見学があればよい ・実習の意図が伝わっていないような気がする ・希望する部署がよい
④講義について	①適切 8(100%) ②適切でない	・疾患がもっとあってもよい
⑤講義の必要性について	①必要 8(100%) ②講義は実施しなくてもよい	・時間を増やして専門的な最新の知識の講義が必要
2) 研修期間		
①時期について(10月~12月)	①適切 4(50%) ②別の時期がよい 4(50%)	・7月, 8-9月, 9月上旬頃 ・日没が早く通うには夏がよい ・着る物の調整に困った ・新卒者がある程度育たないと経験者が出られずちょうどよかった
②研修間隔について	①40日連続 7(87.5%) ②前期・後期に分ける ③週1~2日ずつ分散 1(12.5%) ④その他()	・研修は連続がよい ・実習のみ連続で行う
3) 研修体制		
①担当者の配置	①適切 8(100.0%) ②適切でない	
②施設面について	①適切 8(100.0%) ②適切でない	・施設により受け持ち患者があつたり実習時間が違うのはどうか ・緩和ケア病棟の特殊性がわかる施設に実習に行かせてほしい
2. 募集方法・受講資格等		
1) 受講条件		
①経験年数について(5年以上)	①適切 7(87.5%) ②引き上げる 1(12.5%) ③引き下げる ④その他	・5年以上、2科以上経験など
②勤務条件について	①がんに関連する業務に就業していること 6(75.0%) ②看護職員であれば業務内容問わず 1(12.5%) ③就業していなくても過去にがんに関連する業務に就業していた者も対象とする 1(12.5%) ④その他()	
2) 通知機関		
①全医療機関に通知する	3(37.5%)	・多くの人に知ってもらいたい
②緩和ケア等実施予定の医療機関にのみ通知する		・訪問との連携を保つためにも必要
③診療所、クリニックまで通知する	4(50.0%)	・20床以上の一般病院
④その他()	1(12.5%)	
3) 募集期間		
①適切	2(25.0%) ②長期にとる 5(62.5%)	・1か月、3-6か月、6か月
4) 募集方法		
①文章にて通知	8(100.0%) ②ラジオ等 2(25.0%)	
③インターネット	7(87.5%) ④その他 2(25.0%)	
5) 定員について		
①適切である	1(12.5%) ②多い 7(87.5%)	・10人くらいがよい
③少ない		
3. 研修の位置づけ(資格取得は無為) (ライセンス等の資格がなく、一般研修であることについて)		
①現行のままでもよい	1(12.5%)	・県認定の資格にしてほしい
②厚生労働省からの修了書の発行	4(50.0%)	・何かの資格とするべき
③認定看護師の受講資格要件の研修とする	2(25.0%)	
④その他()	3(37.5%)	
4. 研修実施医療機関		
①適切	8(100.0%) ②適切でない	
平成23年度事業の実施にむけた方向性	①継続したほうがよい 7(87.5%) ②継続しなくてもよい ③わからない	・未回答1名
<事業企画に対するご意見を自由にお書き下さい>		
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の間隔が空き宿泊施設に困った。情報がなく無駄に宿泊料金がかかった ・訪問で車に同乗するので保険のことが心配だった。事前の説明があればよかった ・車の通勤を全員に認めてほしい。11月末は早く暗くなる ・実習先と日程を前もって知らせてほしい(早めに調べられる) ・募集から決定までの通知が早くほしい。決定まで時間があり勤務で困った 		

5. 受講生の報告

1) ケースレポート報告

実習期間中受け持ったがん患者についてケースレポートをまとめ発表した。
発表はパワーポイントを用いて行い、事例レポート、プロセスレコードとともに提出した。

研修生について以下に示す。

番号	氏名	施設名
22-1	うえの ゆかり 上野 由香里	光市立光総合病院
22-2	かさば りさ 笠場 吏沙	萩都志見病院
22-3	すぎやま さちこ 杉山 佐千子	美祢市立病院
22-4	せきむら まなみ 関村 真納美	総合病院社会保険徳山中央病院
22-5	とくだ すみこ 徳田 寿美子	済生会山口総合病院
22-6	みやぐち けいこ 宮口 慶子	山口大学医学部附属病院
22-7	やの けいこ 矢野 恵子	山口大学医学部附属病院
22-8	やぶき けいいち 矢吹 敬一	周南市立新南陽市民病院

研修生 A 「その人らしさ」を尊重すること
～相手の心をどう理解するか～

1 はじめに

人は直面した出来事に自分で問題解決をしたり、助けを求めたりする現実的な受け止めをしている場合と、自分で問題解決出来ず助けも求められず悪い方向（危機）に進展する非現実的な受け止めをする場合がある。しかし出来事は現実的に受け止められない限り問題解決にはつながらない。出来事の受け止めは非常に重要でありどう対処するかによって危機に影響を及ぼす。

今回化学療法+放射線治療のため入院し特に有害事象などない患者とゆっくり関わる事により患者の思いを尊重することの大切さを学んだので報告する。

2 患者紹介（実習場所 1 病棟 7 階東）

患者：N 氏 71 歳 男性

病名：膀胱側壁部膀胱がん（pT2N0M0）

家族構成：妻と 2 人暮らし 1 人娘は結婚して東京在住 孫（男）1 人

性格：妻曰く「自己中心的、常に自分が正しいと思っている」

3 現病歴

XX 年 1 月頃より肉眼的血尿を認めていたが放置していた。腰痛出現にて 5 月 7 日近医受診、CT で膀胱がんを指摘されたため 5 月 19 日 Y 病院受診、精査で膀胱がん（cT3bN0M0）と確定診断され OP 予定となる。

6 月 7 日食欲不振と意識障害で緊急入院、溶血性貧血に対してステロイド治療を行った。入院後心電図にて完全房室ブロックを認めたため 7 月 9 日ペースメーカー植え込み術施行。7 月 21 日数年前より異常行動や人格の変化（暴力・暴言）があったため家族の希望で精神科を受診し前頭側頭型認知症疑いと診断されるが、受診中立腹され再受診を拒否、現在は状況により行動を制御できるレベルのため様子観察中である。

8 月 26 日膀胱がんに対し TUR-B t 施行。退院後の定期受診にて再発（pT2N0M0）と診断され化学療法+放射線療法のため 10 月 19 日入院となった。

4 経過

10 月 21 日から化学療法（GC 療法 1 回/週）、10 月 22 日から放射線療法（18 回の全骨盤照射と 9 回の小骨盤照射のトータル 27 回の予定）が開始されており化学療法 1 サイクル、ライナック 1 回目が終わった 10 月 25 日からの受け持ちとなった。受け持ち初日では 1 時間ごとの頻尿と不眠を訴えられていた。以前より前立腺肥大の既往があつて内服をしていたようだが中断していたため 10 月 25 日より内服再開となった。不眠について